



ネパールに根付く安全・健康野菜！

■ 実施団体：

特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン

■ 対象国・地域：

ネパール国

カブレパランチョク郡パンチカール市

■ 現地カウンターパート

NGOラブグリーンネパール



■ 協力内容：

・農薬や化学肥料の危険性、健康への影響を周知すると共に、環境保全の重要性を広めるIPM（総合的病害虫雑草管理）農法の普及

- ・安全な野菜を出荷するための共同出荷グループの設置
- ・コロナ禍における農業の就労の場の創出

■ 団体のこれまでの取り組み：

・1991年創設。主にネパール国内で森林保全、農家の生計向上などの活動から始まり、様々な活動を組み合わせた農村開発モデルを展開。

■ 事業実施の背景：

・プロジェクトサイトは首都近郊の野菜生産地として重要視されているものの、農薬が長期にわたり過剰に使用されたことによる健康被害等が報告されている。安全な野菜栽培を行いたいという要望は多いが、その知識および実施方法が指導できる現地人材が不足しており、IPM農法の普及のみならず、普及ができる現地人材の育成を行うことで状況の改善を目指した。

ネパール国の課題と成果

課題① 農薬を使用しない野菜栽培方法の知識および技術、並びにそれを指導可能な人物の不足

成果① 野菜栽培研修コースを修了した農家をモデル農家と位置づけ、モデル農家から周囲の農家に周知する枠組みを構築した。モデル農家の中から更に高度な知識・技術を持つ専門家を育成した結果、事業終了時には現地政府機関に指導員として認証された。

課題② 安全な野菜を栽培しても出荷する場所が少なく、他の野菜と区別せずに売られてしまう

成果② 既存の市場に安全野菜の共同出荷場を設置するなど、農家の出荷能力の向上の一助となった

事業の波及効果



行政の巻き込み、女性の参加を促進！

・パンチカール市の農業施策に、安全野菜の生産促進が盛り込まれるようになった。またプロジェクトで養成した野菜栽培指導者は、各区に配置され、市が人材活用のための予算を組むようになった。

・モデル農家養成の対象者を、女性を過半数としたことで、活動に参加する女性の率が増えて、女性の発言力が増した。